

# 暑さに強い！中晩生の良食味新品种 「えみほころ」

新たな水稻品種として「えみほころ」を育成しました。既に普及している「彩のかがやき」・「彩のきずな」の中間となる中晩生熟期の品種で、県内全域に栽培適性があり、新たな品種の選択肢となります。

※「えみほころ」：品種登録出願公表中（2022年7月26日公表 出願番号 36133）

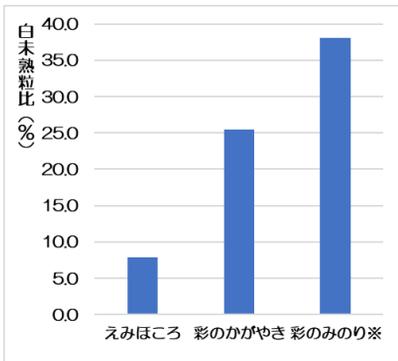


図1：えみほころと各品種の早植栽培における白未熟粒比の比較（玉井試験場・2018年～2021年の平均）

※彩のみり：従来の中晩生品種



早植栽培の玄米（玉井試験場・2021年）  
左：「えみほころ」、右：「彩のかがやき」

☑ **暑さに強い**  
「彩のかがやき」に比べ、暑い夏でも白未熟粒発生が少なく、玄米品質が優れます！

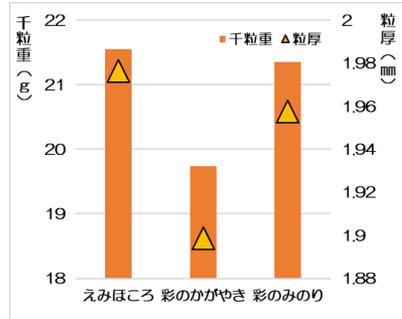


図2：えみほころと彩のかがやきの早植栽培における千粒重及び粒厚の比較（玉井試験場・2018年～2021年の平均）

☑ **大粒**  
「彩のかがやき」に比べ、厚みがあり、千粒重が大きいという特徴があります！

☑ **イネ縞葉枯病抵抗性**  
県内における重要病害「イネ縞葉枯病」に抵抗性です！



「えみほころ」

☑ **収量**  
「彩のかがやき」に比べ、早植・普通期ともに同等の収量です！

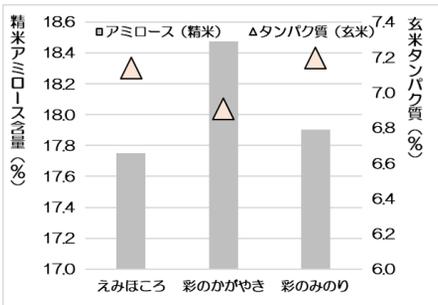


図3：えみほころと彩のかがやきの早植栽培における食味関連形質の比較（玉井試験場・2018年～2021年の平均）

※一般的にアミロース含量が低いと粘りが強くなります。

☑ **良食味**  
精米のアミロース含量がやや少なく、食味は「彩のかがやき」並です！

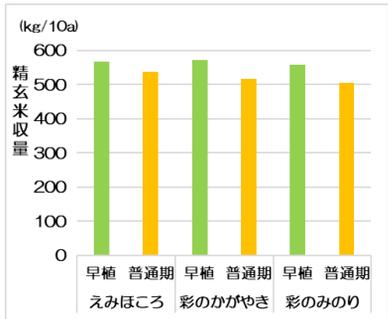


図4：えみほころと彩のかがやきにおける精玄米収量の比較（玉井試験場・2018年～2021年の平均）

本県の水稻移植期間は4月下旬から7月上旬と、全国的にも稀に見る長さとなっており、中晩生熟期「えみほころ」は、そのほとんどの作型に適応可能なため、麦類との二毛作や他品種と組み合わせて栽培をすることにより、土地利用率の向上と作業分散による経営の安定が見込めます。